

廃プラスチック 分別のヒント

注意 廃プラスチックのリサイクル環境は、地域により違いがあります。分別を計画する場合は、委託予定処分業者と事前によく打合せを行って下さい。

レベル1 廃プラスチックを、種類・素材に関係なく「廃プラMIX」として分別！
 分別された「廃プラ MIX」は、全てがリサイクルされるわけではありませんが、混合廃棄物で処理するより、リサイクル率は格段にあがります。



分別廃棄時の注意事項(レベル共通)

- 他の廃棄物を混ぜない。
- ごみは土嚢袋から出して廃棄する。
- 金属や木くず等の異種材質との複合材、及び異種材質が付着した廃棄物はいれない。
- 液状等の未固化の汚れが付着している廃棄物はいれない。
- ビニルクロスは、「廃プラMIX」には入れない。

以上ができない場合、廃プラスチックは再生できず、埋立処理となります。

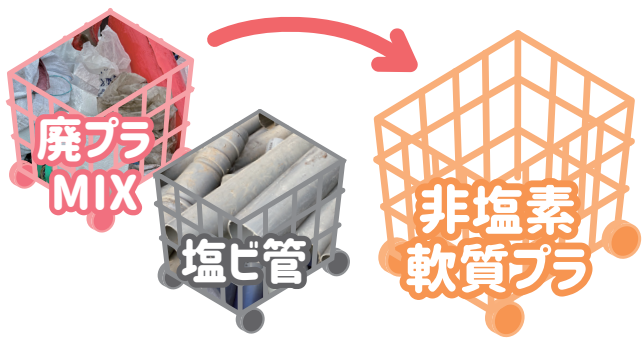
NG事例

レベル2 (レベル1の分別に加え)「塩ビ管」を分別します！
 塩ビ管は、マテリアルリサイクルされる廃プラスチックです。単品分別により、リサイクル率が上がります。



注意 色がグレー以外はリサイクル不可となるケースがあります。リサイクル可能かどうかは、処理委託する処分業者に確認して下さい。

レベル3 (レベル2の分別に加え)「非塩素・軟質プラ」を分別します！
 塩素を含まない軟質系廃プラスチック(非塩素軟質プラ)は、固形燃料(RPF)の原料等となり、セメント工場等で熱エネルギーとして利用(熱回収)されます。



非塩素軟質プラ(例)

PPバンド フレコンバック ビニール袋

レベル3・5 さらに**単品分別**を行うと、マテリアルリサイクルとなる品目があり！
【注】品目は処分業者に確認して下さい。

効果 No.1
レベル4 (レベル3の分別に加え)「非塩素・硬質プラ」を“単品”分別します！
 塩素を含まない硬質系廃プラスチック(非塩素硬質プラ)は、プラスチック製品の原料として再利用(マテリアルリサイクル)が可能であり、最も地球に優しい再生方法です！



非塩素硬質プラ(例)

発泡スチロール CD管等 コードリール

【注】品目は処分業者に確認して下さい。



建設現場における“廃プラスチック”分別計画のヒント

建設現場から発生する廃プラスチック（以下「建設系廃プラ」という。）の分別活動を、リサイクル効果別にレベル設定しました。レベルが「1」→「4」に上がるほど、取組み難易度が上がりますが、リサイクル効果も上がります。建設現場での分別活動計画の参考資料として下さい。

廃プラスチックの現状

現在、世界全体で年間数百万トンもの廃プラスチックが海洋に流出していると推計され、地球規模での環境汚染問題となっています。また東南アジア各国での廃棄物輸入規制により、国内での廃プラスチックの資源循環がより一層求められています。

建設系廃プラの特徴と課題

- 埃やペンキが付着し汚れているものが多い。
- 多種多様なプラスチックが使われており、素材ごとの分別が難しい。
- 以上の特徴から、廃プラスチック再生施設が建設系廃プラの受入を忌避する傾向がある。

分別活動の必要性とメリット

建設系廃プラは、リサイクル処理ルートを有している中間処理会社に処理を委託すればリサイクルされ、そしてそのリサイクル効果は、建設現場での適切な分別により一層高まります。また、中間処理会社によっては、処理料金が下がる可能性もあります。

廃プラスチックのリサイクル等の方法

廃プラスチックのリサイクル等としては、次の①～③の3つの方法があり、建設系廃プラの場合、主に①③の2つの方法で処理されています。

- ①マテリアルリサイクル・・・プラスチック製品の原料として再利用。
- ②ケミカルリサイクル・・・高炉還元剤、コークス炉化学原料化等として再利用。
- ③熱回収・・・・・・・・・・・・・・ 廃プラスチックを焼却する際に発生する熱エネルギーを回収・利用。

注)廃プラスチックを原料に固形燃料を製造する方法は、“熱回収”に分類されます。

「マテリアルリサイクル・ケミカルリサイクル」のすすめ

建設系廃プラは、熱回収と埋立処分が主な処理方法となっています。しかし、熱回収は最終的に多くの温室効果ガスを排出することから、2050年カーボンニュートラルを目指す上では、マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクルを促進することが求められています。

「非塩素」廃プラスチック

廃プラスチックは“塩ビ系”と“非塩ビ系”に分けられます。

“塩ビ”とは、「塩化ビニル樹脂」又は「ポリ塩化ビニル」の略称であり、主な原料は“エチレン”と“塩素”となります。

塩ビ系・・・塩ビに含まれる塩素が焼却炉を腐食させ傷めることから、熱回収は原則不可。塩ビ管以外はマテリアルリサイクルも困難。

非塩ビ系・・・マテリアルリサイクルと熱回収ともに可能。

なお、当資料では、“非塩ビ系”を「非塩素」と表現しています。